編集ボランティアのページ

●担当編集ボランティア／森　勝己、築城基裕、岩下茂子、石井恵子、東丘美子、小池涼子

～「団塊の世代」への期待～

「団塊の世代」とは、第一次ベビーブームとなった戦後復興期の、1947年から49年にかけて生まれた約680万人の世代のことをいいます。更にその期間の前後を含めると、その数は約1100万人に上り、総人口の約一割弱を占めています。そして、この世代の人たちは、2007年から順次定年を迎えて企業から去り、それぞれがリタイア後の生活に入っています。

団塊の世代が体験してきた三つの社会的背景

1．人生80年時代を生きる最初の世代

日本人の平均寿命は、江戸時代で45歳と推定され、平均寿命が50歳になったのは1947年頃で、奇しくもこの団塊の世代から急速に延びたのです。2008年には男女平均寿命は約83歳に迫り、2015年には総人口の約26%が65歳以上の超高齢社会になります。

2．この世代が受けた社会的影響

この世代の人達には、次のような社会的影響がありました。

●戦後の食料事情がよくなった（飽食）　●私生活重視ができるようになった（家庭重視）
●家事分担に抵抗感が少ない（男女平等）　●年金制度の恩恵を受ける最後の世代（制度改革）

従来の制約を余り受けることなく、自由な発想が出来た時代であり行動派と言われます。

3．社会から期待されていること

現在のＮＰＯ団体の多くは、その活動を戦略的にどう発展させていくのかについての戸惑いが見られます。福祉関係も複雑化しマネージメント力の強化が必要になりました。団塊の世代が現役時代に培ってきた豊かな経験を生かした活動を社会は期待しているのです。

今までのシニアは、リタイア後の人生を、どちらかと言えば個人的に楽しむことに満足する生き方でした。余生の楽しみ方は誰もが自由に選択できるものです。しかし、今後の超高齢時代を乗り切るためにも、「団塊の世代」の巨大なシニアパワーを社会は期待しています。福祉や地域ボランティア分野への、更なる参入と活動を願っているものです。

「フレディの遺言」

フレディ松川　著・こころ美保子　絵

今回ご紹介するのは、『フレディの遺言』です。

私が受講したヘルパー2級取得講座で講師の介護士が朗読して、とても心に響いた本です。

私がまさか　ボケることはないと思われるかもしれませんが、
先のことは　私にもわかりません。
万が一のときのために、家族や、私の介護にあたってくださる人へ
次のようなことを　今からお願いしておきたいと思います。

長年にわたり何千人もの患者を診続けた老人病院の院長が、
「私がそうなったら、そうしてほしい」と思うことを温かい言葉でしたためています。

今までの自分を忘れてほしいこと。何をやってもすぐ忘れる病気の人だと思ってほしいこと。
頭の中がモヤーッとしてとても不安で怖いこと。だから怒鳴らないで優しく笑顔で接してほしいこと。
心が寂しい時、若い頃に大好きだった曲を聞かせてほしいこと。
どれだけ知性が破壊されていても、その分、感性だけは豊かなのだから

認知症は記憶障害を中心にして、いくつかの知能が衰えることにより日常生活がスムーズに送れなくなる病気です。その基本症状に妄想や徘徊などの随伴症状が加わることで、介護はますます大変になっていきます。

家族が認知症になったときのために、自分の認知症を防ぐために、様々なアドバイスが書かれています。

今、介護と向き合っている方を始め、多くの方にぜひ読んでいただきたい絵本です。

ボランティア交流会から

さる6月6日（日）尾西庁舎６階で、尾西地区のボランティアさん33名が集まり交流会が開かれました。

これまでもなかなかボランティアさん同士で話す機会がなかったので、何かきっかけになるようなイベントがあればと思っていた人も大勢いたように感じます。

この交流会では、自己紹介に始まり、自己のボランティア活動を話し合い、その後ゲーム等の交流を通じ、とてもよい雰囲気になっていました。

初めて参加した高校生は、たくさんの人から声をかけられ、とても嬉しかったと話しており、今後の活動も前向きにがんばってくれることでしょう。

次回、交流会を開くときは、一宮全体のボランティアさんを集め、一段と大きい交流ができればいいなと思っています。

「介護と暮らし」　実録体験レポート4

～介護生活を取り巻く社会的インフラについて考えてみたが…～

今回は、“介護”に関わる暮らしには欠かすことのできない、社会インフラについて考えてみたいと思います。

「要介護２」である私の父は現在、週１回のデイサービス（入浴含む）と週２回ホームヘルパーによる家事支援を受けています。それとは別に、私の妻が２歳の子供を抱え、毎日訪問し、食事提供と家事全般の援助を行っています。現在はとりあえず、上記のサービスを受け、日々ギリギリの生活を送っていますが、今後の衰えや状況の変化に対してこの先どうしていったらいいのか？どうすることがベターなのか？こんな思案が頭から離れない日はありません。

現代日本において、介護保険制度が始まってから10年以上が経ち、国や地方自治体、福祉団体、NPO法人、民間事業者に至るまで、介護に関わる様々な施設やサービスが存在しています。その中には、“介護”に全く縁のない人ばかりでなく、一般的にあまり知られていないサービスや施設も多いのではないでしょうか？私が知っているだけでも、まず施設としては、有名な「特別養護老人ホーム」をはじめ、「老人保健施設、グループホーム、軽費老人ホーム（ケアハウス）、短期入所施設（ショートステイ）、最近ではケア付き高齢者専用住宅（マンション）など」といったものもよく目にします。皆さんこれらの違いがわかりますか？私も曖昧なことばかりです。「特別養護老人ホームは、申し込んでも３年待ちだよ～」な～んて話しは誰かから聞いたことがあるかもしれません。また、介護サービスとしても、在宅で受ける「訪問介護サービスを基本に、訪問入浴介護、訪問リハビリ、等」があります。

他にも生活サービスの視点から本当に多種多様なサービスが様々な主体者から提供されています。正直、こんなに色々あっても、どれがどんなもの？どれくらいの費用がかかる？どのようなメリット（デメリット）がある？どうやって申し込むの？つまりは、うちの○○さんにとってはどれがいいの？誰か教えて～！といった状況になるのではないでしょうか？もちろん、被介護者の（家族の）状況で変わってくるんでしょうが。

一般的には、ケアマネージャーやソーシャルワーカー、社会福祉士といった方々に相談するのが普通なんでしょうかね。うーん、**“介護生活スーパーアドバイザー　コーディネーター　スペシャリスト”**（笑）なんて人がいたら重宝されると思いますが…。

皆さんどう思われますか？